

作手 地域意見交換会

11月4日つくで交流館

地域	番号	月日	場所	テーマ	参加者からの意見、提言内容	回答等	回答後の対応又は現時点の進捗状況等(12月末現在)
作手	1	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(まちづくり)	市長さんは、10年後の新城市はどのようなまちを描いていらっしゃいますか。また、その中で、作手地域はどのような地域と位置付けてとして考えていらっしゃいますか。	作手地区の強みとして、立地と気候を生かした農業への取り組みがあります。しかし、担い手の問題、獣害対策、様々な農業の課題があります。これについて例えば、水稲であればスマート農業を取り入れている地域があります。デジタル化を進めていながら生産効率を上げていくことも、今後進めていく必要があると思っています。作手地区で人口減少が続いている一方で、作手地区に魅力を感じて、外から訪れてくださる方も大勢います。地域の皆さんと一緒に行動をするところまでの関係人口をこの地域の力にしていく。そんな一つの仕組みをつくれと、この地域の持続、集落機能の維持、また産業の維持振興に、市外の方の力を借りているということが見える化してくると思います。そういうことを考えていきたいと思っています。それで一つ提案です。岐阜県の飛騨市が持続可能なまちづくりとして関係人口を力にしていくという取り組みがあります。作手地区でも、核になる地域でモデル的に取り組んでいただき、それを横展開していくことができれば、皆さん、元気が出てくると思っています。それから、この地域に移住をしたい、そして農業を始めたいというニーズは間違いなくあります。これまでも、農業支援が移住に繋がっているケースがあり、30人ほどの新規就農者がいます。今まで移住を進めながらも、移住を受け入れるわかりやすい窓口が、これまで本市にあったかという少しそこは反省点でありましたので、移住ポータルサイトを来年の2月の末には運営していけるように準備しています。ポータルサイトには、地域の空き家や農地などの情報を提供するだけでなく、地域の魅力、新規就農支援制度であったり、子育て支援の取り組みであったり、また、地域に移住してきた方のみならず、地域で相談役になってくださる方もつなぐような仕組みを取り入れて進めていきたいと考えています。そして、運用を始めてからも改善をしていきますので、皆様からは様々なご提案をいただきたいと思っています。それから、名古屋大学と包括連携協定を結び、この間、取り組んできましたメディカルバレーのプロジェクトです。これからのデジタル化の目的は、地域の皆様の福祉の向上、利便性の向上、満足度の向上にあります。産官学と地域が連携し先端技術の導入による課題解決の先行地域になれるように、しっかりとサポートしていきたいと思ます。(市長)	左の回答等のとおりです。(企画部長、産業振興部長)
作手	2	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(医療・福祉)	健康づくりの場が足りない。新城に行かないとできない状態が多いです。健康づくりの場をもう少し作っていただきたいと思っています。	その点につきましては、意見として賜りましたので、担当にお話をさせていただきます。(健康福祉部長)	お出かけ講座として、各地域で健康教室を開催しています。作手地区においても、ご活用いただければ幸いです。また、健康づくりについては、健康課へご相談いただければ、対象者の方の状態に合わせた方法について一緒に検討させていただいています。(健康福祉部長)
作手	3	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(医療・福祉)	作手保健センターが機能しなくなりましたので、不便に感じる方は多いと思う。改善していただきたい。今まで訪問とかあったが、現在は閉鎖されてしまって、ガン検診くらいしか機能してない状態なので、もう少し力を入れていただきたい。	保健センターの業務につきましては、今現在、新城保健センターで集約をさせてもらっております。作手保健センターに職員は常駐していませんが、訪問事業は変わらず実施しています。ただ、作手診療所の中で、介護の手前になる方の指導なども行っているということもありますので、その辺をご理解いただきたいです。保健センターとしては、検診などをやっておりますので、作手診療所と保健センターで連携をし、今後も色々な事業がうまく展開できるよう検討をしていきたいと思います。(健康福祉部長)	左の回答等のとおりです。(健康福祉部長)
作手	4	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(農業)	稲作の未来について、お聞きしたいと思います。10年後にお米をつくる担い手は、ほとんどいなくなるのが予想されると思いますが新規就農者の支援をお考えですか。また、新規就農者の支援は、トマト、ほうれん草、イチゴになっていますが、お米も担い手の対策が必要ではないでしょうか。あと、特Aを取ったミネアサヒをどのように守っていくのか教えていただきたいと思います。	本市では、新規就農者の確保、育成を推進していますが、新規就農希望者に対して、経営が成り立つ農業として、施設園芸農業のトマト、ほうれん草、イチゴを提案しています。水稲につきましては、土地を確保しづらいという状況があります。水稲専門の農家で経営が成り立つのは、概ね15から20ヘクタールの経営規模が必要だと言われています。新規就農者に対して、ある程度まとまった土地を提供するのはなかなか難しい状況で、また、設備も多額、多数必要ということもあり、なかなか就農に対するハードルが高いというのが現状です。しかしながら、担い手が高齢化しているということがあり、今後は、真に守るべき農地をゾーニングして、担い手への水田の集約・集積を推進し、効率化する必要があると思っています。また、担い手の負担となっている畔の草刈りなど水田管理の方法や、担い手不足の集落における集落営農組織を設立するなど、地域水田を守る方法について、地元の方と一緒に考えていくことが重要であると思っています。最後にミネアサヒにつきましては、今年度、JA、県と市とで「新城市水田農業推進協議会」というものを立ち上げ、作手地区の水田営農の推進を図っていきます。また、道の駅のつくで手づくり村の食堂で提供している米や、五平餅に使っている米は、作手産のミネアサヒ100%であることを前面に出してPRしているところです。(産業振興部長)	左の回答等のとおりです。(産業振興部長)
作手	5	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(森林)	作手の良いところは山が多いところだと思います。でも今、山は荒れて、倒木などにより通行止めが起こったり、今年もすぐく停電が多かったと思っています。山を他人事ではなく、自分事として考えていくことが大事だと日々感じています。森林整備をイベントに絡めて、市外の人たちを巻き込んで整備を進めてはどうでしょうか。例えば伐採しながら、ログハウスを作りましょうなどとすれば、それが移住者にも繋がることもあるかもしれません。農業などは色々な体験がありますが、林業バージョンも考えてはどうでしょうか。また、農業では、新規就農者への取り組みがありますが、林業バージョンを考えてはどうでしょうか。	森林を自分事として捉えていただくための機会として、市をはじめ林業や木材に関する各団体が、森林の良さ、木そのものの良さ、それから山での作業を体験していただくイベントを年間通じて開催しています。主なものとしては、チェーンソーの取り扱いから実際に伐採するまでを体験していただく森林整備体験講座。市民参加の森づくりという事業もやっております。それから、小学校の授業の一環として開催されているもので、市有林に入り、実際に木を切るという体験を通じて、森林整備の大切さを学ぶ学校出前講座などを実施しています。市では、森林の良さをPRするために、市の森づくり基本計画を定めております。その中で、未来の森づくりの担い手の育成という意味もあり、様々な体験を計画しているところです。今回いただきましたログハウスの提案も参考になるものですので、今後もご意見をいただきながら、検討して参りたいと思っています。(産業振興部長)	・市民参加の森づくりでは、草刈り機を安全に使用するための講習も含め、6月から10月にかけて6回の講座を開催しました。 ・学校出前講座では、年間5校開催を計画し、令和4年度は千郷小学校、八名小学校、鳳来寺小学校、東郷西小学校、庭野小学校で実施しました。 ・木育教室では、年間6園の開催を計画し、令和4年度は大野こども園、八名こども園、作手こども園、舟着こども園で実施し、今後、城北こども園、東郷西こども園での実施を予定しています。(産業振興部長)

作手 地域意見交換会

11月4日つくで交流館

地域	番号	月日	場所	テーマ	参加者からの意見、提言内容	回答等	回答後の対応又は現時点の進捗状況等(12月末現在)
作手	6	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(医療・福祉)	<p>作手地区に移住ということもありまして、若い人が移住して来ても、今、安心して出産できる場所が無いと思います。自分も出産するときに、市民病院の産科が無くなってしまい、すごく不安な出産をした記憶があります。もし、安心して子供が産めて、安心して子育てができれば、若い人も移住してこられるのではないかと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>また、助産所がありますが、リスクがある方は助産所では多分産めないと思うので、結局、大きな総合病院に行かなければならない状況です。リスクがある人は、市外に行くしかないで、作手地区から行くとなると時間がかかってしまいます。</p> <p>ちょっと不安のある妊婦時期と出産を迎えることになるので、今後、安心して産み、育てられる環境が充実していることが大事だと思いますが、この件について、どう考えているか教えていただきたいと思います。</p>	<p>新城市民病院には平成17年ぐらまで産婦人科がございました。大学の医局からの派遣という形で常勤の医師が2人いましたが、医局の方から常勤の医師の引き上げという形になりました。その後、常勤の医師の確保に奔走してまいりましたが、産科の医師については、リスクが多いたとか、勤務条件が厳しいということで、医師の中でも特に医師が少ない状況です。市民病院としても引き続き、常勤の医師の確保に動いていますが、なかなか確保が難しいという状況にあります。</p> <p>お産となりますと、常勤の医師が2人は必要ですので、市民病院として、産む環境を再構築するというのは、現状としては難しい状況です。そうした状況から、助産所という形で現在運営をしています。</p> <p>また、小児科については、現在、週5日を基本とする外来診療を行っています。この週5日を基本とする外来診療をこれからもしっかりと維持してまいりたいと考えています。(経営管理部長)</p>	左の回答等のとおりです。(経営管理部長)
作手	7	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(医療・福祉)	<p>10年後には自分が要介護者になります。作手にいて、今までは最後は虹の郷があると安心感がありました。しかし、現在は虹の郷は土日が利用できず、下へ行かなければいけません。見知らぬ所へ、家族を連れて行くことにすごく不安もありますし、本人もそういった面で苦労すると思います。最後は作手から出なければいけないのかと不安があります。</p> <p>土日のショートステイが無くなった理由を聞いたら、人手不足だと言われました。虹の郷ができた時、作手の中でも介護資格を取得した方がいらつやっと思ったので、そういった方の資格を活用し、土日のショートステイを充実させていただけると、私たちの10年後は、ちょっと安心かなってというのがすごくあります。</p> <p>10年間、元気にみんなで仲間づくりをしようとか、作手を元気にしようというのは、やはり地域の人たちがそういう気持ちにならないとできないので、そこは地域の人たちに任せてもらうぐらいで、あとは市の方でフォローしていただけたら、安心して10年後まで元気に過ごしていけるかなと。作手で楽しく暮らし、最後を迎えるまで作手で安心して暮らしたいと思っていますので、虹の郷の充実をお願いしたいと思っています。</p>	<p>虹の郷につきましては、作手地区におきまして、特別養護老人ホームや介護保険サービスを行う事業者がいなかったということがあり、整備された施設であると認識しています。</p> <p>先ほど言われたように令和2年度から土曜日、日曜日のショートステイが休止という状況になっています。休止につきましては、職員の確保が難しいというところがありまして、虹の郷全体の事業の継続を考えたときに、土日のショートステイをやむを得ない判断で休止させていただいたということがあります。</p> <p>介護人材につきましては、地方や大都市におきましても不足しているという状況があります。人材確保ができれば、再開ということも考えられないこともありませんが、現時点では土曜日、日曜日の実施が困難だということで、ご理解の方、お願いしたいと思っております。</p> <p>皆さんの方で介護の仕事に、やる気がある方がお見えになれば、ぜひお力の方貸していただければと思っていますのでよろしく申し上げます。(健康福祉部長)</p> <p>福祉従事者、それから介護従事者の不足の問題は、全国的にも新城市にとっても深刻な課題であります。手を打たないと福祉従事者、介護従事者の人材の確保、人材育成も含めて大変厳しい状況になると思います。</p> <p>ご存知の通り、福祉条例を令和3年度に制定しまして、今年度は、福祉従事者、介護従事者を市民で守っていくというような取り組みに繋がるように支援施策の推進会議を持ってあります。市内の社会福祉法人の方、市民病院の職員、保育士、有識者も含めて、福祉介護に携わる方のサポート支援。それから介護事業所、福祉事業所間の連携に向けた取り組み。さらには、この仕事の魅力の発信、また、市民の皆様、多くの皆様にごこうした立場でお仕事する方への理解の促進に向けた取り組みも三つの柱で進めてあります。</p> <p>しっかりと実を結ぶように、推進協議会の皆さんの力を借りて、また、多くの市民の皆さんの理解と協力を得て進めて参りたいと思っています。(市長)</p>	左の回答等のとおりです。(健康福祉部長)
作手	8	11月4日	つくで交流館	11年後の新城ビジョン・作手ビジョン(公共交通)	<p>初めて私たち仲間と朝5時半に作手を出て、藤が丘まで行く一番のバスに乗って遊びに行き、帰って来たんですよ。その時にすごく思ったのが、これってすごいことなんだと。</p> <p>せつかくだからもつとみんなが、下へ降りて行けると良い。作手デマンドバスも入れていただいている、何とかデマンドバスをもっと利用できて、「朝からデマンドバスで新城まで降りれるとすごい良いよね」とかという話もあって、「そうすると私たち10年後に免許返納したときに、それでも名古屋へ遊びに行けるよね」とか、そういう期待もあります。公共交通でいろいろやっていただいているので、もう少しそこが改善されて、10年後になってもバスに乗って遊びに行けるという希望もあるので、そういう面で私たちも一生懸命デマンドバスを利用して、何とか継続して行ってほしい。それでまた、作手は新城へ降りるよりも、岡崎、豊田を通って行った方が早いので、検討いただいて、10年後も、私たちがどこかへ出かけていけるような、そんなシステムもできると嬉しいなと思います。</p> <p>私たちも利用しないと、デマンドバスが無くなっちゃうので、それは住民も考えなくてはいけないんですけど、何かそういった機会を持つと「こんなふうには公共交通が使えるよね」とかというのを、作手の中で話し合えたり、勉強したりとか、そういう場所も、場面も作れると良いかなと。私たちが遊びに行くだけじゃなくて、若い子たちが行けるような方法も、そんなこと作手の中で話し合える場所があるといいかなと思いました。</p>	<p>応援いただきましてありがとうございます。</p> <p>今言われたとおり、デマンドバスを作手では取り入れていて、デマンド交通という形で先進的にやられて見えます。台数が2台しかないということで、今言われたように新城であるとか、岡崎の方まで出て行ければいいんですが、やはり2台で回しているの、逆に、この管内から出てくことによつて、その効率も下げるといこともあります。ですので、なかなか一概に「わかりました。やりますよ」とは言えないですね。</p> <p>それから、作手線、守義線、作手にはそういうバス路線があるんですけど、その組み合わせであるとか、使い方っていうのは、いろいろ改編することもできます。うちの公共交通対策室に担当職員がおります。今、いろんな地域にも同じような課題がありまして、会に出させていただいております。是非、一部ではなくて、作手地区全体の会を起していただいて、うちの職員を入れていただいて、皆さんとお話させていただく機会を設けたいと思っています。ぜひよろしく申し上げます。(総務部長)</p>	左の回答等のとおりです。(総務部長)
作手	9	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(まちづくり)	<p>長者平団地の残り17区画が、全部売れているというのが10年後の僕の中での作手ビジョンです。</p> <p>テレビ番組とかでも移住された方が活躍できるという、生き生きと生活されてるところを見せてくれるんで、見る僕らも元気になるんです。そういう方たちが住めるような、作手であるといいなとすごく思っていて、長者平団地という場所があるわけ、そこを市に任せてしまおうとか、市の方が売るとか、自分たちも一緒にあって、あそこをPRしたり、「移住先でどうですか」ということが言えるような、一緒になってやれるような、活動ができるといいなというふうに思います。何か秘策があれば、市の方からまた言っていたらありがたいです。</p>	<p>最近、作手の方に若い方で、空き家を探したりだとか、こういう自然を求めてこられる方が、非常に多いと聞いております。</p> <p>そんなこともありまして、地域の方にお願いしたい。協力願いたいことがあります。</p> <p>長者平団地だけではなく、作手の土地を購入した方は長期にわたって、この地域と付き合うことになります。そこにはきっと不安だとか、わからないことが沢山あると思います。安心して、楽しく住んでいただくためには、地域の方の支援が本当に大事だと思っています。是非、支援者となっていただいて、市役所と地域と一緒に、受け入れてあげられる体制、細かな情報提供など、いろいろ含めてサポートしていけたら良いと思っています。(作手総合支所長)</p>	市の関係部署と連携をとり、市役所と地域の方との意見交換などの体制づくりを検討しています。(作手総合支所長)
作手	10			10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(催事)	<p>昨日、鬼久保のリフレッシュセンターで、つくでの森の音楽祭を開催させていただきました。コロナ禍なので、60組程度の参加者での開催でした。</p> <p>作手地区の方たちは優秀な方が多くて、小さなイベントなんですけども濃い内容のイベントをたくさんやっています。それが、市長さんが言われてた関係人口を増やすことに繋がっているのではないかと感じておりました。</p> <p>昨日開催させていただいたつくでの森の音楽祭は、昨日で終わりです。終わってしまうという話になってしまいました。</p> <p>こういう優秀な方たちが頑張っている、作手地区の小さなところで頑張っているイベントだとか、行動だとかを終わらせないような取り組みをうまく市の方も拾い上げてくれて、やっていただくとすごくいいのかなというふうに感じましたので、これはお願いにもなるんですけども、一緒に市と市民とが作手のことを考えてやっていけるような感じになるといいかなと思いました。</p>	<p>イベントを終わらせてしまうということに関しては、非常に辛いことですが、市ではご存知のように地域活動交付金という形で、サポートできるような仕組みがありますのでご理解をお願いします。</p> <p>関係人口の増加、こちらは全市のな地域自治区で求められていることです。例えば東郷地区ですと、IT人材育成講座をやっています。この講座へ兵庫県からや他の地区から1ヶ月程度の期間、合宿方式で受講をされています。こうしたことが定住に結びついたりだとか、地域の良さを知っていただいて、地域の方と交流を持っていたら、そうした意味で、地域の力にはなつてくださるという話を聞いておりますので、また作手の自治振興事務所の方に情報を届けさせていただきますので一度ご覧いただければと思います。よろしく申し上げます。(企画部長)</p>	左の回答等のとおりです。(企画部長)

作手 地域意見交換会

11月4日つくで交流館

地域	番号	月日	場所	テーマ	参加者からの意見、提言内容	回答等	回答後の対応又は現時点の進捗状況等(12月末現在)
作手	11	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(医療・福祉)	保健師さんの健康教室が少なくなっていますので、保健師さんを活用した事業をちゃんと作手でもしっかりやっていただきたいと思います。	ご意見として承りました。担当と調整させていただきます。(健康福祉部長)	お出かけ講座として、各地域で健康教室を開催しています。作手地区においても、ご利用いただければ幸いです。(健康福祉部長)
作手	12	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(歴史・文化)	<p>作手には愛知県で人気ナンバー3に入る古宮城があります。先日、古宮城の整備と、亀山城の整備に行って参りました。ボランティアの高齢化が進んでいまして、見ていると、ちょっと危険だと思われるような作業もたくさんある中で、70代の方頑張ってボランティア活動をしています。古宮城の方は、作手地域の人だけではなく、他の市、静岡だったり、お隣の東栄だったり設楽だったり、違う地区の人たちがボランティアに入って草刈作業とかもしている状況をこの間見てきました。</p> <p>多分、作手だけじゃなくて、鳳来もそうですし、他の地域の歴史ボランティアをやっている方は、高齢化がとてもし進んでいると思います。歴史という若い方は敬遠するのかななど思っていました。この間の馬防柵での草刈りには若い方もいらっしゃいました。新城にはいろいろすばらしい史跡が沢山あるので、作手は、作手の地区だけではなく、新城全体的にボランティア活動ができるような交流の機会も、この頃すぐあつて参加させてもらったりしています。歴史に興味のない方も、自由に参加できるようなボランティア情報が共有できたり、お手伝いお願いしますみたいな広報を市でやっていただけると良いと思います。</p> <p>来年いよいよ大河ドラマ「どうする家康」も始まりますし、新城市が、「どうする家康」が始まるにあたって、どんな観光のビジョンをお持ちなのかを聞かせてもらいたいと思います。</p> <p>また、新城全域で歴史的にすばらしいものを持っていると思うので、市がどうやって歴史を守っていくかっていうことも教えて欲しいと思います。</p>	<p>史跡をめぐり、また公園も含め、自身が研究され、皆さんに説明やガイドをしたり、また、その整備をされている皆さんの取り組みに大変感謝しています。現在、いろんなところでイベントが企画されています。大河ドラマ徳川家康ゆかりの地、この地が取り上げられるのはチャンスですので、観光振興に繋がる事業として、一度、情報の整理をして発信する必要があると考えています。</p> <p>来年の大河ドラマの年に、幅広い年代の市民の方が、このまちの魅力を再認識して、新たな魅力を発見するというような、きっかけの年にしたいと考えています。しかし、地域の皆さんが、この新城市を本当に自慢できる良いところだと思わない限り、観光は持続しないと思います。ですので原点に戻って、この1年、2年、細かな様々なイベントだとか事業をやってきますけども、その本質のところを必ずしっかりと押さえて、やっていく必要があると思っています。私としてはそういう方針で、観光については、取り組んでいきたいと思っています。(市長)</p> <p>来年放送の大河ドラマに縁があるということで、市としましても今年の2月に「徳川家康ゆかりの地活用推進会議」を設置しまして、市、観光協会、観光商工、農業、金融、地域団体等の方とボランティアガイドの会の方が集まって、徳川家康生誕のゆかりの地をPRしていこうということで情報交換をさせていただいております。</p> <p>その中でボランティアガイドの会につきましては、「歴史の見えるまちづくりネットワーク」を作り、勉強会を開催するようになりました。このような横の繋がりができてきたということもありますので、連携して武将観光ですとか、いろいろな観光へ広げてまいりたいと思っています。(産業振興部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月19日に第2回徳川家康ゆかりの地活用推進会議を開催し、令和5年1月から放送開始の大河ドラマに向けた各団体のこれまでの活動について情報共有しました。 ・PR用の小のぼり旗1000本作成し、市内28か所に435本を設置しました。その他の場所にも許可が取れ次第順次設置していきます。 ・市の公共施設や市内3つの道の駅に、小のぼり旗の設置と大河ドラマのポスターを掲示することにより、来訪者に「徳川家康ゆかりの地」をPRしています。 ・東三河広域観光協議会が主となり実施する「家康街道で地域の魅力をつなげるプロジェクト」で、メディアや地域団体を対象とした徳川家康ゆかりのスポットを巡るモニターツアーとして新城―浜松ルート、新城―岡崎ルートの各1本、計2本を12月に実施しました。(産業振興部長) <p>左の回答等のとおりです(教育部長)</p>
作手	13	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(まちづくり)	新城市が今後発展していくためには、市民一人ひとりが、市民意識をしっかり持って、連携して取り組んでいくことが必要だと思います。中学校単位ぐらいでの住民意識は強くても、新城市民としての意識は、比較的希薄ではないかなというふうにも見受けられます。新城市民として一体感の持てるような施策を考えていただければありがたいなと思っています。	<p>平成27年の合併10周年の記念式典で市民憲章の制定を行いました。また、これまで作手の皆さんにもご協力いただいて、しんしろ戦国絵巻三部作として、長篠合戦のぼりまつり、作手古城まつり、設楽原決戦場まつりを一体的にPRし、実施してまいりました。こうしたことなどをはじめとして、合併後の新城の一体感を醸成するために、事業をやってきているという認識ではあります。</p> <p>令和7年の10月1日には合併市制施行20年の節目を迎えます。この際には多くの市民の皆さんが参加して、一体感を高められ、心に残る記念事業にしたいと考えています。記念事業に向けた計画や検討していく過程も一つと思いますので、またその際には、アイデア等も出していただくなり、ご協力もお願いしたいと思います。(企画部長)</p>	左の回答等のとおりです。(企画部長)
作手	14	11月4日	つくで交流館	10年後の新城ビジョン・作手ビジョン(教育)	子どもが3年生なんですけれど、「運動会らしい運動会をやってみたい」「学芸会らしい学芸会をやってみたい」と子供たちがそう言っています。	<p>学校行事が子供を育てると思っています。このホールでの発表会やこの素晴らしい運動場での運動会をおもいきりやってもらいたいというのが本音でございます。何とか工夫して、なんとか運を呼び込んで、そして、そういう時が早く来ることを願っていますし、そういった中で、作手の子供たちが育っていくことを一番思っているところですので、できる限りの対応をしていきたいと思っています。(教育長)</p>	<p>運動会は、今年度、低中高学年にわかれ、時間をずらし分散して開催しました。コロナ対応だけでなく、働き方改革も視野に入れた行事見直しの一環で行いましたが、分散開催は、児童たちに主体的な動きを促し、保護者の評価も概ね高かったと認識しています。今後も子どもの声も大切にしながら開催形態を検討していきます。学芸会は今年度、2月に開催予定です。作手交流館で、日ごろの学習成果を発表するという形で実施する予定です。(教育部長)</p>